

平成28年度  
新規事業候補箇所の新規事業採択時評価

平成28年3月8日  
国土交通省 北陸地方整備局

# 一般国道470号（能越自動車道）田鶴浜七尾道路に係る新規事業採択時評価

- ・能越自動車道の唯一の未事業化区間の一部を整備し、近年活性化している能登地域への観光振興、企業活動を支援。
- ・通過交通の排除により、安全・安心な地域の形成に寄与。

## 1. 事業概要

- ・起 終 点: 石川県七尾市赤浦町～石川県七尾市千野町
- ・延 長 等: 3.4km(第1種第3級、暫定2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約95億円
- ・計画交通量: 約7,300台/日

	乗用車	小型貨物	普通貨物
約	5,500台/日	1,000台/日	800台/日



図1 事業位置図



図2 広域図

## 2. 課題

### ① 能登の周遊観光・企業活動に不可欠な高速道路ネットワーク

- ・北陸新幹線開業や能越自動車道の延伸に伴い、企業進出や主要な観光地の入込客が増加。【図3】【図4】
- ・しかし、H15年以降の観光入込客の推移をみると、金沢地域と比べ、能登地域は減少・伸び悩み傾向。【図5】
- ・県の観光戦略「ほっと石川観光プラン2016」では、H37年までに観光入込客を3000万人とする目標としており、金沢地域だけではなく、能登の地域資源を活かした周遊観光の促進が大きな課題。
- ・周遊観光や三大都市圏をマーケットとする企業活動の活性化のためには能越自動車道の「最後のワンピース」である当該道路の整備が不可欠。

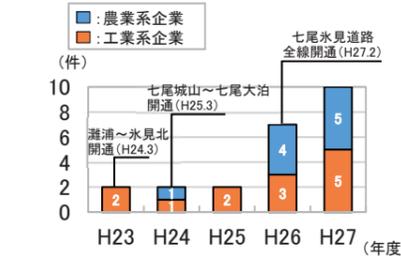


図3 能越道の整備と能登地域の企業進出・増設件数の推移

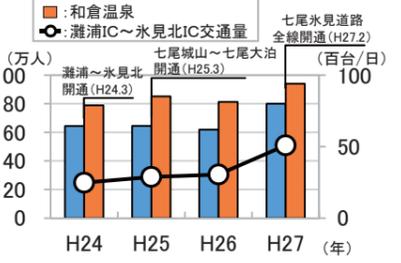


図4 主要な観光施設の観光入込客の推移

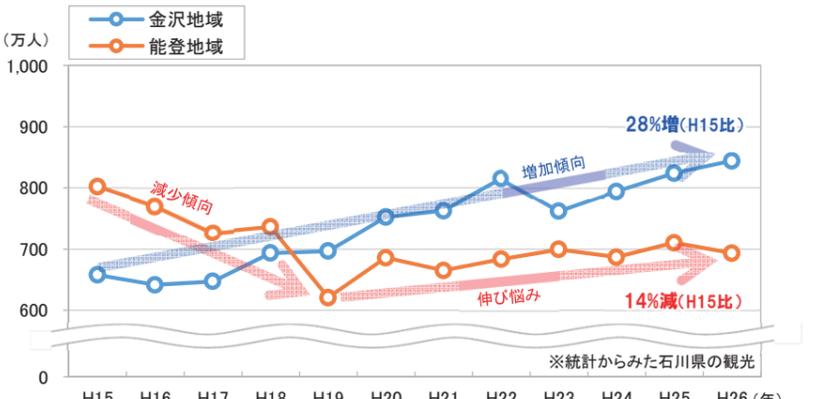


図5 能登・金沢の観光入込客の推移

### ② 通過交通と生活交通の輻輳

- ・国道159号の七尾市街地部は事故危険区間が連続し、死傷事故率(127.2件/億台km)は北陸管内直轄国道平均(43.2件/億台km)の約3倍。【図6】
- ・七尾城山ICのアクセス道路が通過交通の抜け道として利用され、住民生活の安全・安心を阻害。【写真1】



図6 七尾市街地部の事故危険区間



写真1 通過交通の抜け道となっている道路

### 3. 整備効果

#### 効果1 観光振興と企業活動を支援 [◎]

- ・対象区間の整備と、観光地までのアクセス道路との一体的な整備により、周遊観光ネットワークを形成。H34北陸新幹線の敦賀延伸等を見据えた「H37年の観光入込客数の目標3,000万人」に向けた取組を支援。【図7】
- ・北陸自動車道や東海北陸自動車道との接続により、県が進める能越自動車道を活かした企業誘致の取組や、三大都市圏をマーケットとする企業活動を支援。【図8】
- ・対象区間の整備にあわせて、現道活用区間において、必要な交通安全対策を県が実施することにより、早期の効果発現を期待。



図7 周遊観光ネットワーク

#### 効果2 安全・安心な地域の形成 [○]

- ・通過交通が排除され、国道159号の七尾市街地部の安全で円滑な走行環境が形成。
- ・死傷事故率が約3割減少  
【現況】127.2件/億台km → 【整備後】92.9件/億台km  
※ITARDAデータ、推計値により算出
- ・通過交通の抜け道となっている道路の安全・安心を確保。

■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用	総便益
1.1	4.6%	8,013億円※2	8,537億円※2
(1.2)	(5.2%)	(89億円※2)	(105億円※2)

注)上段の値は輪島IC(仮称)～小矢部砺波JCTを対象とした場合、下段( )書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果  
 ※1: EIRR: 経済的內部収益率  
 ※2: 基準年(平成27年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)  
 ※3: JCT間の費用便益分析は、当該区間のうち、ルートや構造が確定した区間を対象に算定)



図8 三大都市圏をマーケットとする企業進出状況

# のうえつ たつるはまなな お 一般国道470号（能越自動車道）田鶴浜七尾道路に係る新規事業採択時評価

